

市町村情報

わたしたちのまち

トップインタビュー



掛川市 榛村純一 市長

駅前から市役所に向かう私たちの足元に、美しい年輪を見せる「木煉瓦」の舗道が続き、掛川千三百年の歴史とともに、フェミニズム市政の息吹きが伝わってきます。

市長さんとしてこれからの女性に望むことは――

今、「52才の女性が最も輝くまち」という市のキャッチフレーズはどうか、と言っているんです。女性の美しさは、若い時の肉体的な美しさ、それに続く熟女の美しさ、そして内面からの知的な美しさであって、この三つの総和がピークにくるのが、52才頃というのが望ましいと思うのです。
市長としては、女性が暮らしやすいまち、美しく明るいまちを目指していますので、皆さんは、52才頃が最も輝くよう生涯学習をしてほしいですね。

女性の生活も考え方も随分変化してきていますが、女性観を含めてお聞かせ下さい――

「男と女」も「陰陽の原理」の内にあると思いますから、女性的なるもの（文化的、定住的、平和的、母性的等々）を大切に行っている姿が自然だろうと思います。

女性が、職業でもボランティア活動でも、社会で、あるポストを得て仕事をするのは大賛成ですが、子どもや家庭との関連で考えると難しい面もありますね。市にも女性の係長がいます。それぞれの場で、能力をみがいて人材となり、いい人生を創ってほしいと思います。

最後に、ご家庭の市長さんは――特に変わったところはないと思いますが、「おだて上手」「おだてられ上手」になることも大事だと考えてシコシコ、ボチボチ暮らしています。いたわりや、やさしさの感情の中に救いがあると思っていますので。

お忙しいところをありがとうございます。ございました。



河津町 板垣賢一郎 町長

天城路は、踊り子の道であり、ハリスが江戸へ向かった歴史の道である。

板垣町長は、六十五才の今日まで天城の山河に親しみ、その街道の歴史に尽きぬ関心を持ち、近く三冊目の著書「続々天城路」が出版される。

町長として、これからの女性に望むことは――

皆さん方にも履歴があるように、町にも歴史があります。河津の昔から現代までの姿を知って、さらに前をみつめ、町はこれからどうあったら良いのか、婦人の皆さんにも考えていただきたい。町議十八人中、三々四人は女性であつたらと思います。女性本来のやさしさ貞淑さと、現代女性の積極さを、併せ持つ女性が理想的ですね。

私の母は、子供の好きな人でした。家の前が登校集合場所になっていたので、よその子が粗相をしたりしてもよく面倒をみていました。子供は母親が手塩にかけて育てれば、それだけのことはあると思います。時代が違ふと言われるかもしれませんが、子育ても大切に。

ご家庭での町長さんは――

老妻が畑仕事が好きでしてね。早朝、農協へ出荷しますので、朝食の後片づけは自分の役割だと思っています。

「男子厨房に入らず」ではなく、夫婦はいたわりあい、という温かい人柄が伝わるお話しでした――

国の動き

「国連婦人の10年」について

国連連合は、才21回総会で一九七五年を国際婦人年と宣言するとともに、一九七六年～一九八五年の十年間を「国連婦人の10年」と決定した。この間、世界行動計画を発表し、二回の世界会議を開催した。そして、一九七九年の第34回国連総会では、「婦人に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」が採択された。我が国政府は、一九八十年七月、コペンハーゲンでの世界会議の最中に、この条約に署名をしたが、今日にいたるまで批准はしていない。現在、「婦人の10年」最終年の一九八五年中の批准をめざして、雇用における平等及び、教育における平等など、国内法の整備を検討中である。



平和の象徴の鳩、生物学の女性記号(♀)数学の等位記号(=)をデザイン化した、国際婦人年のシンボルマーク。



連絡先 周智郡春野町宮川1467の2
電話 〇五九(九)〇三七一
代表者 児玉澄子

お年寄りに幸せを
地域福祉をささえる

《春野つくし会》
会が発足して三年。寝たきり老人やひとり暮らし老人の入浴介助や日常生活の手助けが主な活動。リーダー児玉さんの献身的な取り組みが、町や婦人会を動かし、グループが誕生した。

現在、会員二十六名、医師・保健婦・民生委員ら専門家の協力も得て、お年寄りの状態に応じた活動につとめている。

当初、地域のいろいろな事情からボランティアの受け入れを拒む場合があったり、活動資金の不足を補うために、会員が茶農家に茶摘み作業に出たりしたが困難を一つ一つ乗り越えて、成果をあげている。

高齢化社会はこれからが本番という時代を迎え、実際に、彼女たちの訪問を待ちわびている老人の姿を見るにつけ、こうした活動が各地で行われ、真に地域に根ざしたのものになってほしいと願わずにはいられなかった。
今後は身体障害者にも手を差しのべ、活動の輪を広げたいという会員の熱意に、女性のやさしさと頼もしさを見る思いがした。

創作人形劇

《富士・さくらんぼの会》

はつらつまママさん達が、黒子装束で汗だくになりながら、テープにふき込んである音楽やセリフに合わせ、人形を動かしている。人形劇を通して子どもによいものを、との目的で、五十四年に発足。会員は三十代の主婦二十六名、それぞれの特技を生かして、脚本、人形造り、セリフの吹き込み、照明、音楽、効果などすべて自前で、工夫を重ねて創っている。

コミカルなもので子供たちが喜び、民話や文学もので老人が涙を流す。レパートリーは今や三十余りになり、年間十回以上の公演を行っている。
子供の部、ジュニアの部も誕生して、地域のコミュニケーションづくりにも一役買っている。

連絡先 富士市今泉15の8
電話 〇五五(四)三三四
代表者 明石 みゆき



大型紙芝居

《富士・婦人民話の会》

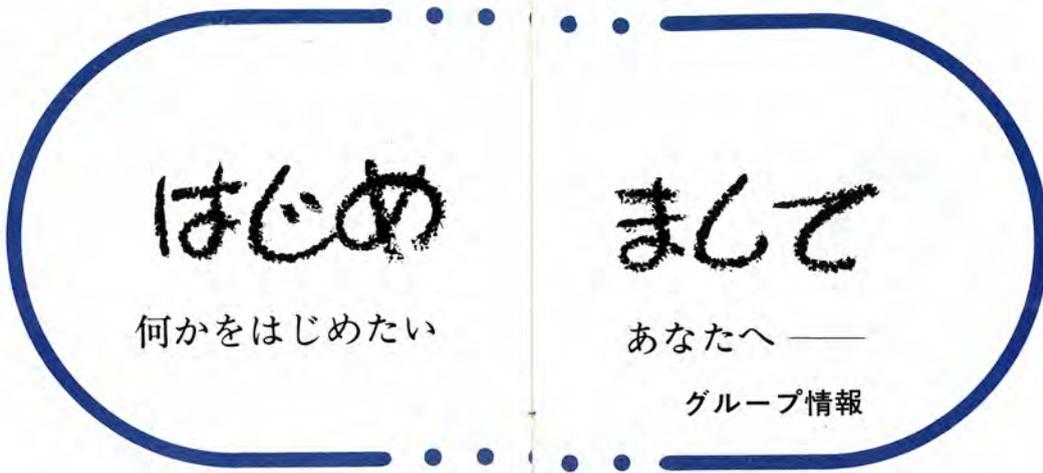
郷土の歴史と昔話を、大型紙芝居にして子供たちに伝え、親子の対話・家族のふれ合いを取りもどし、地域づくりの一環にもしたいと、五十五年が発足。

会員は、三十代の主婦を中心に二十名。公民館を活動の拠点に、企画から紙芝居の作製まですべて手作りである。

幼稚園、保育園、子供会などで公演しているが、幼児には民話の良さを、高学年向きには郷土史を盛り込むなどの工夫もされ、好評を得ている。

今後は、同じような活動をしているグループとの連携を図りながら、子供たちの健全育成にも役立ちたいと意欲を燃やしている。

連絡先 富士市本市場499の1
電話 〇五五(四)〇二二〇
代表者 高野 春代



はじめて
あなたへ
グループ情報

婦人の手で省資源
環境美化・青空市

《西伊豆町消費者グループ》

風光明媚な観光地堂ヶ島のある漁業中心の町。石油ショックを契機に、「物を大切にしよう」との目的で、五十年にグループが誕生した。

五十名ほどで出発したが、漁港をもっている田子地区の「海の幸」と、農業中心の仁科地区の「山の幸」の交換の市や、それらの料理講習会などが人気を呼んで、現在は、五十代の主婦を中心に百十五名の会が発展した。

消費展の開催や、広報紙「くらしの広場」を発行して全戸に配るなど活発な活動を展開している。特に、廃油を再利用して作る石け



賀茂郡西伊豆町田子二六六の四
電話 〇五五八五(三)〇一四五
代表者 山本恵美子

手をつなごう

子育て後の人生

《島田・笑の会》

「子育てすんで四十年」といわれる現在、グッと延びた後半の人生に、自分は何ができるのか、という問題意識を共通の基盤として、五十一年に、市の中央婦人学級の卒業生を中心に結成された。現在会員約四十名。

発足以来八年、その活動は地域に根ざしながらも、他のグループとも連帯し、会員一人ひとりにとってなくてはならない自己研修の場となっている。

順おくりボランティアの精神で始めた市の婦人学級の託児ボランティアは、若いお母さん達の学習意欲を支えているのは勿論だが、数々の工夫がこらされた内容に子ども達からは「文化センター幼稚園」と呼ばれて親しまれている。

また、教育委員会の後援で開いた「ミセスのためのしまだスクール」は、今年は、女性史セミナー「男と女のかかわりを歴史にみる」をテーマに、五月から六回にわたって開催されたが百人の予定のところへ二倍以上の申し込みが寄せられ、活動の輪の広がりをみせている。秋には、老人介護など高齢者問題のセミナーも開きたいと

意欲満々である。

連絡先 島田市旭一丁目三の三二
電話 〇五四七三(六)〇一七〇
代表者 松下 ちよ





西ドイツのくらしと女性の生き方



夏枝・V・ステイグマン

(西ドイツ・グロッテンベルグ在住)

ドイツの国民性は日本のそれと異って大変個人主義的である。西ドイツ女性の生き方、家庭生活が多種多様なのはその国民性にあるともいえる。従って、グループ活動は一般的に好まれないし、下手である。

それでも、一九六五年頃から女性が意欲的に目覚め、地方によってはボランティアグループがかなりできたようだが、まもなく、経済黄金時代の波で市町村や財団が公共施設を拡充し、それらのグループも殆んどこれに、吸収された形となった。もともと、西ドイツには昔から存在する教会の「教会会」があり、その中にはボランティアグループもある。が、ここに所属する女性の数は現在では非常に限られている。

個人主義の土壌の中で育っている女性達を、一般論化して述べるのは冒険であるが、西ドイツ女性の「生き方」に対する興味のもち所を突いてみよう。

まず、独身女性は、自分の職場が第一で、自由時間は主として気の合う友人と、文化・スポーツ・旅行などを楽しんでいる。

家庭の主婦は、第一に子どもとの心の交流を大事にする。だから子供が生まれれば、出来るだけ職

場を退き家庭に戻る。子供が小学校に入れば午前中だけ職につき、午後は子供のために家にいるという場合が多い。子供の不良化は家庭内の愛情と重要な関係があるという意識が強いからである。

オ二には、夫との心の交流である。最近では、昔からの伝統のマナーがくずれ、子供が大人の世界へ入りこむ、という愛情のかけ方はき違いで、子供中心の家庭が増してきたといわれている。しかし、子供と大人の社会をはっきり区別するのをマナーとしている家庭では、夫婦二人だけの会話の時間をもち、夫との心の交流が欠けないよう、女性が努力している。

オ三には、他の家庭との交流である。特に趣味の合う家庭を選びお互いの教養を豊かにする話題を好み、休暇旅行のインフォメーションから子供や学校、職場の情報などを交換する。

オ四に、「自分」の教養を高めることである。自分が人間としてあらゆる方面に目を開いて向上してゆくことは、生きてゆく上での励みになり、夫や子供へのプラスともなる。具体的には、オペラコンサート・展覧会・外国語講座文化講演・スポーツ等に参加することである。これだけ多彩なプロ

グラムを常時続けてゆくのであるから、「家庭」と「自分」で手一杯、その他のことに興味を示すことは不可能ということになる。

それでは、子供が独立して夫と二人きりになったり、自分一人になってしまった女性についてはどうであろうか。この中には前にふれた「教会会」に積極的に出席して活動している女性が多い。これらの女性達は、ドイツでも数少ないネットワークのできる人達である。三十年以上も教会会で活動をしている七十五歳の女性の言葉をかき、この文の結びにしたいと思う。「最近の西ドイツの女性は文化・政治・スポーツに通じ、自分の家庭を守ることには熱心であるけれど、私の目にはとても利己的にみえる。これが本当の女性のあり方であろうか。」

筆者紹介

筆者は、東京芸大、ミュンヘン音楽大音楽科卒。夏は毎年、バイロイトのワグナー祭にコーラスで出演。

教会音楽のかたわら、通訳や翻訳もする。オ三回県家庭婦人海外派遣団の通訳を担当。夫と十四歳の男の子の三人家族。

いごま

「ねっとわあく」2号を読んで

河津町 鈴木美智子 40代

「男に頼っていたら強くない」というのが私の持論です。己に厳しくをモットーにソフトボールのチームを作ってきました。「ねっとわあく」の皆さん空振りをしないように、コッソツとがんばって下さい。

裾野市 篠塚利之 40代

日々たくさん情報の中に身をおいていますが、その中から社会の大きな変化を示すような問題を、調査からだけでなく、行政として、意見をいれた問題提起の場にしたらと思います。

裾野市 三好房江 40代

女性の進学率が高まり、職場もだんだん拡がって男女差別の壁が打ち破られつつあります。

しかし、果議会には女性の議員がいません。「ねっとわあく」がその足かりとなれば素晴らしいと思います。

静岡市 高柳雅代 40代

女性の将来像を考える時必ず出てくる「社会参加」と、その裏腹についてくる「老後の問題」。この点に、是非行政サイドからの後押しをお願いしたいと思います。

掛川市 加藤冷子 40代

確実に訪れる高齢化社会、老後の問題は、四十代に入った今、一日も猶予のできない問題として関心を持っています。これを単に一人で考えるのではなく、婦人会や婦人学級の活動の中で重点課題として取りこんでいっただらと思います。

磐田市 鈴木正善 40代

この情報誌が、県内に大勢いる平凡でも何かをしようとしているあらゆる分野の婦人の意見や提言を掘り起こして、より多くの人の意見交換の場となつてゆけば、と思います。

浜松市 谷川京子 20代

情報過多の現代、問題提起はずいぶん頻繁に行われていると思いますが、その解決策は？評論家的なものでなく、実践行動に結びつく生きた情報を載せて下さい。

浜松市 大場香恵子 30代

現在育児中で家庭にどっぷりつかつていた私にとつて「ねっとわあく」はとてもよい自己啓発になり、本の紹介などで意欲を湧き立てられました。

ただ保健予防関係の記事は、必要な人なら皆知っていることのように思えました。

本

本の紹介

「家庭のない家族の時代」 小此木啓吾著

ホテル家族、劇場家族、サナトリウム家族など、心の絆が弱まった現代の家族は、様々な課題を抱えて揺れている。私たちにとって家族とは何なのか、新しい家族のあり方を探る。

A B C 出版 九百八十円

「主婦ブルース」 目黒依子著

かつて安定の象徴であった主婦の座が動揺し始めている。今、主婦たちが陥っている不安と緊張のブルース状態とは。その社会的背景を探る。

築摩書房 八百五十円

「主夫と生活」 マイク・マグレディ著

ニューヨークの花形コラムニストである著者が、奥さんと役割を交代して家事育児に専念してみた。この実験を通して初めて理解できた主婦の姿とは。

伊丹十三 訳 学陽書房 千二百円

「アメリカの家族―離婚・再婚・子どもたち」 N H K取材班著

激増する離婚・再婚の嵐の中で男と女の意識はどう変化したか。多様な生き方を模索する現代アメリカの女性を中心に、様々な家族像を描く。

日本放送出版協会 千二百円

「寝たきりにならないために」 二瓶万代子著

年とっても寝たきりや呆けにならずに、住み慣れた地域で生きたいと誰もが願う。そのためには、著者長年の実践と研究から、老後の指針を語る。

ミネルヴァ書房 千二百円



58年度 編集員の紹介

子育てもホッと一息。夫の健康もまずまず。さて自分は？「三食昼寝つき」も今が潮どき。固くなり始めた頭をフル回転させ、まず行動をと思つて挑戦。「何か」を摸索中の女性に少しでも刺激になるような情報誌をつくりたい。

どの本を読んでも、うんうんとうなづくばかり。頭の中には、あらゆる考えが在るのだけれど、系統だったものにならない。書くことによつて整理してみたい。伊豆の河津からの車中（三時間半）は、人を観たり、本を読んだり、貴重な時間です。

変化の兆はみえるものの、まだまだ男社会のなかで、「女性とはこうあるべきだ」という従来の殻を破り、女性の可能性を追求していきたいと大志を抱いて応募。「生き生き人生」をモットーに、あらゆる角度から自立を考えたい。今回の編集長。

子育て業、寝たきり老人介護業修了。雇われ年齢制限大超過。頭も身体も衰えてゆくの痛感、そのためあえてチャレンジ。趣味に没頭する気にもなれず、やきもきしながら社会と関わっている。これまどとは異なった角度、発想で女を見つめてみたい。

末子就学で時間にゆとりができ、あたりを見回すと、雑誌の多さ、その情報量にびっくり。圧倒的に嫁姑同居の多い地方に暮らし、高齢化社会の到来は他人事ではない。目先の役に立つだけでない確実な情報を求め、知らせてゆきたいと意気込んでいる。

◆次号お知らせ

家族問題の実相について、現場レポートを中心に、さらに、先端技術と女性の生活の将来などにも目を向けていきたいと思っています。「はじめまして」で紹介するグループ情報や、「こだま」への投稿をお寄せ下さい。



夏目智子(36)
袋井市



富岡孝(49)
裾野市



白尾敬子(38)
浜松市



板垣靖子(42)
河津町



渥美孝子(41)
静岡市

あとがき

女性が変わったほどに男性は変わらない、といわれている。しかし、物事を真剣に考えている男性は女性の力を十分認識しているようす。すると、女性の変化に目をつむって見たがらない男性が多いのかも。

(T・A)

妻として、母として、女として生きながら、人間として生きたい、と望むとあちこちから不平不満がでるのはなぜでしょうか。人間らしく生きることは、良き妻、よき母、いい女と矛盾しないと思うのですが。

(Y・I)

経済的に自立していない編集員が自立を呼びかけるなんて矛盾もなはだしい？そうです。自戒を込めて言っているんです。

それにしても、男も女もひたすら己れだけを見つめ、自己実現に走ったら、この世から優しさや温もりは消えていってしまうんじゃないか、とちよっと心配。

(T・T)

家族問題が一種のブームのような現在、自分がその渦中に飛び込むなんて思いもよらないことでした。

「ねっとわあく」に取り組んでみて、日ごろの不勉強を叱咤激励されながら四ヶ月が過ぎ、今ほっとして

います。

(S・N)

物事を深くみつめ、考え、他人に読んでもらえる文章にすることの難しさを思い知った、というのが本音です。

次号でも、どこで、どんな素晴らしい「生き方」に巡り逢えるか、と新たな緊張がみなぎります。(K・S)



本年四月一日付の機構改革により、従来の婦人対策室と、教育委員会青少年対策室で行っていた業務を総合して、新たに「婦人青少年課」が発足しました。

表紙

静岡県浜松繊維工業試験場デザイン縫製研究室作成。
同研究室では、浜松市を中心とする県西部地方に一大産地を形成する繊維産業の発展の拠点として、デザインの開発研究、流行基調色やファッションの動向調査などを行っている。

婦人のための情報誌「ねっとわあく」

〈第3号〉

昭和58年9月

編集・発行 静岡県生活環境部婦人青少年課

静岡市追手町9番6号

〒420

<0542>-21-2137